

自殺対策ネットワーク構築事業【滋賀県彦根市】

＝自殺未遂者支援＝

(実施期間) 平成22年度～	(基金事業メニュー) 対面型相談支援事業
(実施経費) 平成24年度 69千円	(実施主体) 滋賀県彦根市

【事業の背景・必要性・目的】

背景：①地域に精神科医療機関が少なく、うつ病等の啓発をしてもすぐに診てもらえる医療機関がない。

②自傷行為のほとんどの者が救急搬送される彦根市立病院には精神科がないため、搬送された精神疾患を有する患者や自殺未遂者等の身体的処置終了後、精神科医療が必要であってもその対応が難しく、精神科医療機関との連携体制をつくる必要があった。

③彦根市立病院に自傷行為で受診した人の87%が休日夜間の受診であり、62%はその日の内に帰宅している。入院は24.5%であるが、1～2日でほとんどが退院している。そのため病院のソーシャルワーカーの関与が難しい。

必要性：上記の課題を解決するため、患者が必要とする精神科医療や適切な相談窓口にスムーズにつなげるためのシステムが必要であった。

目的：自殺未遂者の再企図防止および、この未遂者支援をとおして、救急告示病院と精神科医療、地域の相談窓口とのネットワークを構築し、併せて地域の精神保健のレベルアップを図る。

【地域の特徴・自殺者数の動向】

H22 国調 就業人口

1次産業	2次産業	3次産業
1,018人	18,050人	31,350人
1.9%	33.8%	58.7%

人口の推移

S35 国調	H12 国調	H17 国調	H22 国調	H24.4 現在
60,864	107,860	109,779	112,156	112,257
65歳以上人口比率 (H22 国調)				20.5%

□地域環境等

滋賀県の東北部に位置し、西は琵琶湖を望み、東には緑豊かな鈴鹿山脈が連なり、ここに源を発する芹川、犬上川、宇曾川、愛知川等が、肥沃な穀倉地帯を形成しながら、琵琶湖に注ぎ、また、平地部には国宝彦根城を有する金亀山、荒神山、雨壺山、大堀山等小高い山々が点在し、自然豊かなまちである。

□自殺死亡動向

彦根市の自殺者は、昭和54年～平成8年までは、年15人程度で推移していたが、平成9年に20人を超えて以来、年間20人程度で推移している。

【事業目標 事業内容】

□目標 彦根市立病院に自傷行為で救急受診した患者のうち、80%が地域の相談窓口につながり支援を受けることができる。(平成25年度50%、平成26年度70%、平成27年度80%)

□内容 ネットワーク会議および事例検討会での議論や検討を重ね、彦根市立病院から市障害福祉課への連絡ツール「相談窓口連絡票」を作成し、H23年10月から運用を開始した。彦根市立病院に自傷行為で救急受診した患者のうち、本人または家族の同意が得られた患者について、「相談窓口連絡票」を市立病院が作成して市障害福祉課に送付し、市障害福祉課はこれを基に、本人または家族に連絡をとり、相談支援を実施している。

会議や事例検討会は継続して開催し、自殺未遂者に関する情報共有や対策について検討を重ねている。

【事業実施にあたっての運営体制】

自殺未遂者対策ネットワーク会議は、市障害福祉課(課長、課長補佐、担当(保健師2名))が事務局となり、精神科医療機関、救急告示病院、消防、警察、訪問看護ステーションおよび地域生活支援センターで構成し、保健所および県精神保健福祉センターの助言を得ている。

【事業の工夫点】

- ・市立病院の救急外来で、市障害福祉課に連絡するための同意が得やすいよう、説明用のリーフレットを作成した。
- ・市立病院の救急外来から市障害福祉課への連絡票および返信用連絡票を作成した。
- ・自殺未遂者対策ネットワーク会議と並行して、自殺の背景にある様々な社会的要因に関する相談窓口のネットワーク会議を開催している。
- ・「こころの相談窓口」を設置(医療法人に委託)し、自殺未遂者等の相談支援を行っている。

【事業成果、その他特筆すべき点】

相談窓口連絡票の運用が始まった平成23年11月から平成24年10月までの1年間の実績は、未遂者50件中連絡件数22件(44%)で、その対応は以下のとおりである。

対応	64件(延べ件数)
面接・訪問	11件
電話相談	40件
関係機関連絡	8件
主治医連絡	3件
ケース会議	2件

(問合せ先) 彦根市福祉保健部障害福祉課
 TEL: 0749-27-9981
 E-mail: shogaifukushi@ma.city.hikone.shiga.jp
 URL: <http://www.city.hikone.shiga.jp/>